

---

## 第2回 利根川流域別下水道整備総合計画策定懇談会 議事要旨・議事録

日時：令和6年3月8日(金) 13:15～14:45

場所：さいたま新都心合同庁舎2号館18階DXルーム（WEB併用）

出席者：別紙参照

議事：

1. 懇談会の指摘事項と対応について
2. モデルの確定及び現況水質再現計算について
3. 将来負荷量及び単純将来水質予測計算（暫定）について
4. 今後の検討スケジュールについて

### I 議事要旨

- ・ 本日の議事について事務局案のとおり了承され、モデルを確定した。

### II 議事録（概要）

#### (1) 懇談会の指摘事項と対応について（資料-1）

- ・ 湛水区間における藍藻類の優占種については、手賀沼と印旛沼の影響が考えられるので両者のデータを確認してみるとよい。（浅枝委員）
- ・ 栄養塩濃度の計算値のピークが発生した出水時において、河道内の水位が上昇し河川敷のヨシ原が冠水すると、場合によっては高濃度の栄養塩の水によるヨシ原に存在する池の希少種等への影響が懸念されるため、出水時の水質ピークの値が実際にどの程度だと示せる方法があれば、並行して考えていただくとよい。（浅枝委員）
- ・ 水質の悪い時期を想定した200%及び良い時期を想定した25%の場合の負荷量について、定性的でもよいので高度成長期や明治時代など、いつ頃の年代に相当するか言えるとよい。（浅枝委員）
- ・ 現行計画の将来予測負荷量と現在の負荷量とは差が見られる。今回想定した将来負荷量についても予測通りにならないことも想定し、予測のブレにより生じうる水質予測結果の相違を押さえておいたほうがよい。（斎藤座長）

#### (2) モデルの確定及び現況水質再現計算について（資料-2）

- ・ BODの負荷量についてはそれほどおかしい値ではないと思われる。そこで先ほどの議論に戻ってしまうが、各発生源の負荷量について出荷額や人口の増減と関連付けることである程度の年代が見積もれるかもしれない。（浅枝委員）

#### (3) 将来負荷量及び単純将来水質予測計算（暫定）について（資料-3）

- ・ 将来予測結果の環境基準達成の評価方法について、将来の入力データには予測値が含まれるため、入力データの誤差によりどの程度影響が生じるかも同時に示しておくるとよい。（浅枝委員）
  - ・ 将来予測計算において、地点ごとに異なる補正率を使用しているが、モデルの偏りに応じて一律に補正するというような考え方もある。補正の方法については、もう少し検討する余地があると考えている。なお、最終的な将来予測の結果だけでなく、使用した補正率のデータ
-

---

も示しておいた方がよい。(斎藤座長)

- ・ 将来予測値を見ると、栗橋または芽吹橋あたりから下流において水質が大きく改善する結果となっている。負荷量低減予測の結果と合致しているのかなど、水質改善の原因をモデル上で確認してはどうか。モデルの信頼性の向上にも寄与すると思われる。BODは場所によって内部浄化の寄与が異なるため、全体の負荷量が半分になってもBODが半分の値になるわけではない。予測におけるBOD改善の原因を考えると、地域的な対策や効果的な対策を行う上で重要である。(斎藤座長)
- ・ 人口減少が将来負荷量に与える影響を確認しておくとうい。(浅枝委員)
- ・ 利根川上流部のT-N上昇は負荷量収支により説明できるとのことであったが、BODの水質を上昇させる要因は見当たらなかったという理解でよいか。(斎藤座長)
- ・ 現地の採水場所の問題など、何らかの地形上の要因はないのか。(浅枝委員)  
→各月のデータの確認なども行ったが、明確な上昇要因は確認できなかった。(事務局)
- ・ BOD値上昇要因の検討については、労力と効果の面から、ほどほどのところでもやむを得ないと思われる。そもそも低濃度域での変動であり、10か年平均という考え方自体で問題ない。モデルはこのまま進めてもらってよい。ただし、変動要因があるのであれば、場所によって補正率を変える操作をせざるを得ないという状況は、モデルが現実を反映できていない可能性を示しているとも言える。そのことを意識しながらモデルを使っていくことが必要である。(斎藤座長)

(4) 今後の検討スケジュールについて (資料・4)

- ・ 来年度は今回確定したモデルを用いて、将来負荷量の確定、目標負荷量、下水目標水質、合意事項などをとりまとめる予定である。(事務局)
- ・ また、本日頂いたご指摘についても個別にご相談させていただきたいと考えている。(事務局)

以 上

---